

2018年9月22日

高齢者の身体状況と対処法

**特別養護老人ホーム 聖ヨゼフの園
家族懇談会**

聖ヨゼフ診療所 小林 敏信

パトソン内科学 第一章 「緩和ケアと終末期ケア」

- 「死期が迫っているから食べない。食べないことが死の原因になるわけではない。」
- 経口、輸液、経管などで栄養を入れても症状を軽減したり、延命することはできない。
- 終末期の脱水に関して家族は「患者は口渇で苦しみ、脱水で死ぬだろう」と不安を感じるが、「末期の脱水では症状が出る前に患者は意識を失うので苦痛はない。」
- 経静脈栄養は肺水腫や末梢の浮腫を増悪させ、死の経過を長引かせることがある。
- 嚥下困難の状態では経口摂取を強いてはならない。
- 無呼吸や呼吸困難に対し、意識のない患者は窒息や空気飢餓感で苦しむことはない。

医療の基本的な考え方

- **全ての治療(医学的介入)は不利益(負担)と利益の両方を併せ持っており、**
- **通常の治療と特別な治療(人工呼吸、血液透析、人工栄養)を区別して考えることは倫理的でない。**
- **個々の患者にとって負担が利益を上回るときはどのような介入も行うべきではない。**

空腹、飢餓、餓死

- おなかかすいて苦しいのが「飢え」、飢えて死んでいくのが「餓死」、空腹を強く感じるから苦しい。
- 終末期の高齢者は食欲がほとんどない。胃腸も弱い、食物を受け付けない。
- 胃瘕も点滴もしなければ眠るように安らかに亡くなる。
- 動物を脱水や飢餓状態にすると脳内麻薬である β エンドルフィンやケトン体が増える。これには鎮痛、鎮静作用がある。

欧米にはなぜ寝たきり老人が少ないのか？

- 高齢で食べられなくなっても経管栄養や点滴はしない。
- 肺炎を起こしても抗生剤の内服のみで、点滴はしない。
(両手を拘束する必要がない)
- 多くの患者は寝たきりになる前に亡くなる。
- スエーデンでは延命措置を行わないが、平均寿命は81.7歳
- 高齢者ケア関連予算は高齢者が増加する中で削減された。
(高齢者の生活環境や健康は国の最優先課題ではないから)

宗教の違いは高齢者介護に影響するか？

スエーデンでも昔は胃瘻や経管栄養の高齢者が沢山いた。
今はそんなことをしてまで延命するのは倫理的でないと考えられ、終末期は「食べるだけ、飲むだけ」が社会常識となった。

宗教は関係がない。

高齢者医療施設における緩和医療ガイドライン (オーストラリア)

- 高度認知症においては、感染症(主に肺炎)に対する積極的な治療は推奨されない。
- 食欲がなく、食事に興味を無くした入所者に対し、無理に食事をさせてはならない。
- 脱水と口渇は異なるもので、混同してはいけい。
- 口渇は少量の水や氷を口に含ませると改善するが輸液をしても改善しない。
- 最も大切なことは入所者の満足感であり、最良の輸液をすることではない。

高齢者医療施設にかかる費用 (アメリカの場合)

- ・安いところで(食費込みで)月35万円(二人部屋)~
45万円(一人部屋)
- ・ふつうは部屋代だけで月35万円~50万円
- ・食費を入れると月100万円前後

人生の最終段階における医療に関する意識調査 (厚生労働省)

- ・ 自分が末期がんの終末期になったときに望まないこと

中心静脈栄養 56.7% 経管栄養 63.4%

胃瘻 71.9% 人工呼吸器装着 67.0% 心肺蘇生 68.8%

- ・ 自分の認知症が進行したときに望まないこと

中心静脈栄養 66.9% 経管栄養 71.1% 胃瘻 76.8%

人工呼吸器装着 73.7% 心肺蘇生 75.6%

**あなたが意思表示できない状態になり、更に治る見込みがなく、
全身の状態が極めて悪化した場合、
(高齢社会をよくする女性の会のアンケート: 10代~90代)**

- ・心肺蘇生: してほしい 15.9%、してほしくない 71.3%**
- ・延命のための人工呼吸: してほしい 4.6%
してほしくない 186.6%**
- ・延命のための栄養補給(胃瘻・経管栄養) してほしい 4.4%
してほしくない 86.6%**
- ・上記の結果は若い人も高齢者もほぼ同じ比率であった**

成長と旅立ちの過程

- ・ **★成長の過程**

**寝たきり⇒まずおっぱいに吸い付く(飲み食いが最初に獲得する能力)⇒坐れる⇒立てる⇒歩ける
⇒おむつがはずれる**

- ・ **★旅立ちの過程**

**体力がなくなり歩けなくなる⇒立てなくなる⇒坐れなくなる⇒寝たきりになる⇒おむつをするよう
になる⇒飲み食いできなくなる**

- ・ **最後に残された基本的、最低限度の能力である飲み食いすることができなくなれば、寿命。**
- ・ **自分で飲み食いできなくなれば寿命というのはあらゆる生き物に共通の自然な最後の姿で、人間も例外ではない。**